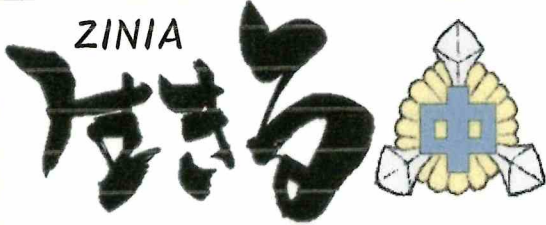


行く月から逃げる月へ..
春はもうすぐそこです！

百口草



三年生ガバレ!!

寒かった年の春には樹木はよく茂る
人は逆境に鍛えられてはじめて偉大になる



今年に入って、三年生の姿になって三年生の
生活の表情が一段と険しくなりました。先週の土曜日に私立高校の専願入学試験が行われ、
今週は合格発表もありました。来週の月曜日は公立高校の前期選抜と重なっています。
この時期は子どもたちの明暗がわかる姿を目の当たりにするので、一番しんどい時期でもあります。

“暖冬”という言葉がバツリ前までは飛び交っていたが、ここに来て本格的な冬の寒さを感じています。冬の寒さと
同じように、受験生としての冬は本当に厳しくて辛い日々です。しかし、この大きな試練と希望を持って乗り切っ
てほしい。そう思っています。生33No.23で“冬来たりば春遠からじ”について思いを伝えました。今週はこの
言葉と向き合ってもらっています。必ず努力したことが結果とつながることを信じて…。困難や逆境を避けて通ることは簡
単なことではない。人の生き方はそれぞれですが、私はやはり、苦しい時に正面からぶつかって鍛えられた人は素敵だと
思います。三年生諸君、ガバレ!!

立春



1月が終わり、本当にあっという間でしたね。
来週からは“逃げる月”に入ります。本年度もあと少
しになってきました。毎年この時期になると、我が家の
庭に植えてある一本の木をちやちやと眺
めたり。その木は私が二十歳の成人式
の時に、合志町からいただいた梅の苗木
です。私も今では立派に成長し、毎年きれいな梅の花を咲かせます。

少年よ
大志を抱け



『立春』 春が立つ日(春が始まる日)。この“立つ”という意は、「神秘的なものや実が現れる」という
意味があるそうです。春は花の蕾がふくらみ、花が咲いたり、特に「あらゆるものの生命の強さ、息吹のよ
うなものを自然界から感じとることができる季節です。」

立志 現在の大人、いわゆる成人(親の視線に服さなくなる年齢)は18歳ですが昔(諸説あり、古
いものは奈良時代に行われている元服の儀)は、15歳前後から大人と認められていました。そんな
昔の名残から、いつか始まった「立志式」は、14歳迎えた子どもたちに、自覚を促すための毎年恒例の日だ
けに行われるようになったそうです。本校でも2月20日(金)に立志式を予定しています。

少し同“立志”のことについて話します。

『志(こころざし)』とは、その人の理想に近い意味があると思います。

- 立志...自分の人生について考えたり、将来の夢、展望を持つこと。
- 責任...社会的、法的に一部責任を持つ年齢であることに自覚すること。
- 感謝...これまでの人生で自分が育んできた“出会い”に感謝すること。

“少年よ大志を抱け”ウィリアムスミス・ブライクの名言には続きがありました。
“志を抱くことは素晴らしいこと!...それは夢を抱く人、志が高く持つ人
は、その実現に向けて前を向かす。一歩を踏み出すから。14歳迎
える2年生がこれと戦い、将来の自分を創造し、自分の道を苦勞して切りひら
いていくまで、いてほしいと思っています。”

2年生は立志式もあり、来週4日から7日まで修学旅行
です。歴史を感じ、春を感じ、光を感じ、お金のことを学んでほしいですね。

少年よ、大志を抱け！
お金のためではなく
私欲のためでもなく
名声という空虚な志のためでもなく
人はいかにあるべきか、
その道を全うするために、大志を抱け

Boys, be ambitious like an old man.
Be ambitious not for money
or for selfish aggrandizement,
not for that evanescent thing
which men call fame.

Be ambitious for the attainment
of all that a man ought to be.